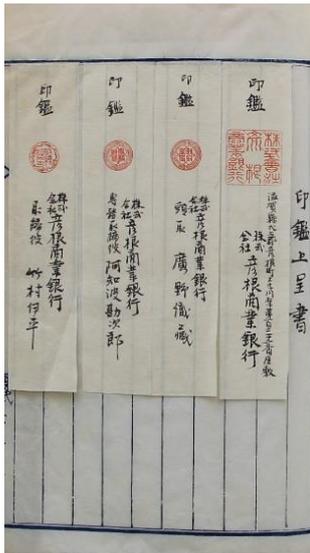


13



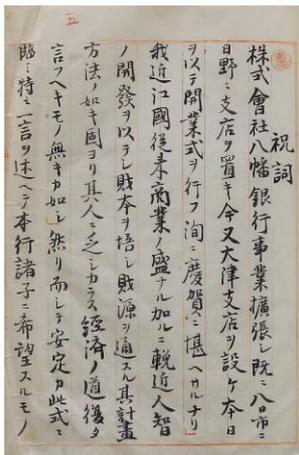
「彦根商業銀行印鑑上呈書」

明治 29 年（1896）7 月 13 日

彦根商業銀行の頭取には第百三十三国立銀行の頭取でもある広野織蔵が就任し、取締役等役員にも同行の役員や大株主が就任しました。第百三十三国立銀行は後に現在の滋賀銀行の母体となります。広野織蔵は近江鉄道株式会社の取締役も兼ねており、資金繰りに苦しむ同社への多額の融資などを行い経済界を牽引した人物です。

【明て 10 (33)】

14



「八幡銀行大津支店開業祝辞」

明治 29 年（1896）12 月 5 日

八幡銀行は、滋賀県で初めて県内に本店をもつ私立銀行として、明治 15 年 2 月近江八幡で開業しました。近江商人らしい堅実な経営とともに、近隣地域に支店を設け、営業地域を拡張していきます。明治 29 年には現在の浜大津の地に近代西洋建築の大津支店を開設し、県内の有力行となっていきます。

【明お 58-1 (5)】

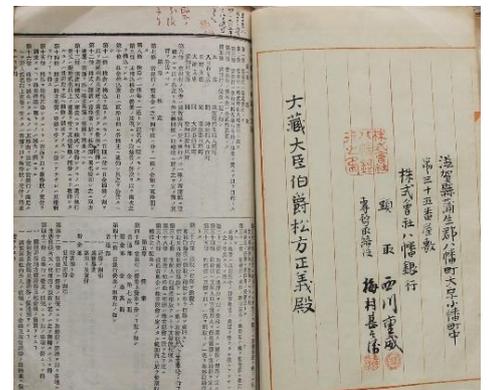
15

「八幡銀行定款」

明治 32 年（1899）7 月

八幡銀行が明治 15 年に誕生した後、20 年代に入ると政府によって商法や銀行条例が施行されていきます。これを受けて八幡銀行は定款の改定を行い、行名が「株式会社八幡銀行」に改称されました。新しい定款では監査役の新設と取締役の増員が加えられ、経営陣の拡充が図られています。

【明て 27-1 (6)】

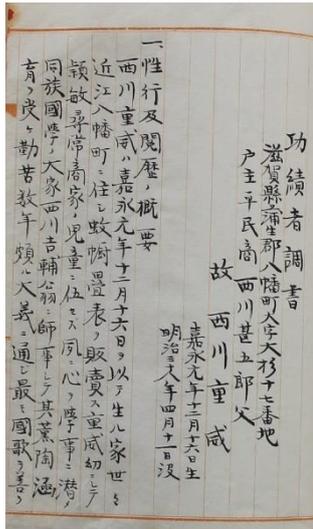


16 「西川重威実業功績者調書」

大正6年(1917)

西川重威は蚊帳・寝具販売の近江商人として財を成した西川甚五郎家の11代当主です。幕末維新期の激動期に困難な経営を担い、改良機械を導入した蚊帳製織工場の新設や布団の仕入れ・販売の強化、八幡銀行の創設などに従事し、後には県会議員や衆議院議員も歴任しました。

【大心8(39)】



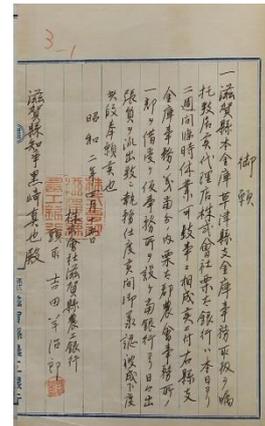
17

「栗太銀行臨時休業に付き御願」

昭和2年(1927)4月15日

栗太銀行は郡下の資産家たちにより明治30年に設立された銀行ですが、第一次世界大戦中の放漫経営から営業不振に陥り、昭和2年4月、2週間の休業を発表します。この休業は、鎮静化を図るため政府による日本銀行の非常貸出を引き起こし、県内における金融恐慌の発端ともなりました。

【昭く106-1(3)】



18

「近江銀行休業に付き電報案」

昭和2年(1927)5月

近江商人の有力者により明治27年に設立された近江銀行は、県内出身の綿業関係者らを主要な取引先として発展し、関西における有力銀行の一つとなっていました。しかし関東大震災やそれに続く昭和金融恐慌の打撃により、昭和2年7月休業に追い込まれます。

【大き6-1(10)】

